

平成30年度上半期の振り返り

最終年度（H33年度）のビジョン

佐賀市市民活動プラザに市民活動に関わる多様な人々が集まり、多彩な活動を通して“幸せ（やってよかったという思い）感”があふれる。市民活動団体が活動をすすめるうえで必要な人材育成が進み、自団体だけでなく周りの団体や企業、行政等とも協働・連携できるようにネットワークを構築し、地域活動課題の解決が進む環境になっている。



平成30年度のビジョン

これまでの周知で市民活動プラザの存在が広がりつつある中、平成29年度に経験したことや来館者から収集した情報をもとに、今年度は来館者が利用しやすい施設管理運営、各事業にも反映できるようにすすめる。平成29年度から情報の提供について多くの情報を一つひとつ丁寧にお伝えすることができてきた。また交流会「いどばたかいぎ」は、多様な人との出会いの場となり知り合った人同士がいっしょに活動されてきた。相談や人材育成についても、市民活動団体が満足してもらえるものになってきているなど、この一年で前進できた。平成30年度は、その事業等一步ずつでも前進できるようすすめる。



基本方針	平成30年度上半期の振り返り
①市民活動の実践者等に対し、活動等の場として施設提供を行う	5月からスタートした今年度の「いどばたかいぎ」は、誰もが参加できる場の提供だけでなく、毎回市民活動団体の活動にスポットを当てテーマを決めて開催している。この手法で、交流の場の提供だけでなく、市民活動団体の活動内容を深く知ること、参加された人が活動に共感したり、興味を持ったりして交流を深めてもらっている。実際に、個人で参加された方が市民活動団体のボランティアをしたり、お祭りのごみダイエット大作戦2018に参加したりなど、交流会が様々な活動の役に立っていることを外側から聞くことがあった。 広報誌は、Topicとして表紙と裏面を使い市民活動団体の活動内容を昨年度から掲載している。今年度はそれと連動し、取材した団体をいどばたかいぎのゲストとして迎えた。また広報誌は、いどばたかいぎだけで収集しきれない内容が詰まっており、閲覧してくれる方々に団体の活動を広く知ってもらうことができる。また、デザインも一新し見やすく少しでも多くの情報を載せられるように工夫している。閲覧してくれる方々のことを考えた広報誌づくりを心掛けている。情報コーナーもその努力を忘れず、情報量は増えているが見やすくエレベーター前に掲示している。 市民活動ガイドブックは、昨年の反省を踏まえ早めに着手したが、団体の解散、代表者や連絡者が変わったなど問題が山積みとなり、窓口含め職員が、何度も団体へ連絡をして情報収集だけは終了した。ガイドブックの内容は、閲覧する人の立場で考え、要る情報、要らない情報など整理しデザインも変更する。 昨年に引き続き、来館者の満足度を向上させるための職員研修は今年度も実施している。また、新たなオンデマンドの機器操作についても利用者の満足度を上げるために、窓口ミーティング等で指導し、心のこもった対応を常に心掛けているものと感じている。
②市民活動団体・行政・企業等の協働・連携の場の拠点として機能する	市民活動団体のヒアリングについては、ガイドブックのカラーページ特集のために職員が二人組でヒアリングを行い、困りごとの聞き取りなどは相談支援につなぎ、相談対応できる職員の場合は直接相談支援を行うこともあった。市民活動団体のヒアリング数は、現在目標の半数であり、計画時の目標値にとどいていないが、一つひとつの団体の活動内容を深くヒアリングし市民活動団体情報として少しでも多くの情報をデータで残そうとしたためである。下半期も引き続き取り組んでいく。 市民活動団体ヒアリングの困りごとの中から、また相談ごとの中から、それらを解決するためには市民活動団体に必要の人材とはどのようなスキルが必要なのか探り、人材育成を組み立てている。 企業のヒアリングは下半期に実施し、市民活動団体とつなげるきっかけをつかみたいと考えている。
③市民活動の実践者等に対する様々な支援を行い、事業が円滑に行われるように協力する	今年度の人材育成については、事業の実務や広報について考え学べる内容で実施している。参加者の満足度も高く、自団体へ持ち帰りすぐに実践できるような講座が多い。また、人材育成に関わってもらった学生インターンには、企画から実践まで経験してもらった。担当の職員にとっては大変なことであったと思うが、学生の成長と同時に職員の成長にもつながったと思う。 ホームページはこれまで以上に配信数を伸ばしたくさんの情報を一つひとつ丁寧に提供ができています。Facebookについては目標数に達していないが、委員からのアドバイスを職員で検討し、日常の何気ない投稿までではできていないが、実施した人材育成の様子など投稿するように以前より配信数が増えてきている。担当職員一人に任せるとはせず、職員間の連携で配信数を伸ばせていると感じている。職員全員が揃うことがほとんどないが、職員の中から声を上げ情報共有や協議の時間を取っている。 相談支援は、これまでと同じく市民活動団体だけでなく、これから市民活動団体を立ち上げたい市民や企業、行政などからも相談を受けている。ボランティア募集の相談も多くなっている。相談支援も担当一人だけでなく、職員で助け合い対応している。